

新聞購読 お申し込み +500円で、デジタルも	デジタル版 お申し込み PC、スマホで
愛読者セット	デジタル毎日



写真 動画 有料会員向け

毎日新聞社 総合案内 宅配申込 会員メニュー ログイン

トップ 社会 政治 経済 国際 サイエンス スポーツ オピニオン カルチャー ライフ 教育 地域 English 紙面ビューアー

総合 企業・産業 経済政策・財政 マーケット スタートアップ WEB CARTOP

[PR] えっ、1000本の増毛が1万円？

日銀 岩田副総裁、物価目標未達「消費税増税が主因」

関連ニュースはこちら

毎日新聞 2018年1月31日 20時53分 (最終更新 1月31日 21時01分)

経済 最新の経済ニュース 経済政策・財政 速報

[PR]



3月19日に5年の任期満了を迎える日銀の岩田規久男副総裁は31日、大分市内での記者会見で「金融政策は一生懸命やったが、他の政策が逆風では、はねのけることができない」と述べ、2014年の消費税増税が2%の物価上昇目標未達の主因だったと強調した。大胆な金融緩和を主張する「リフレ派」の代表格として、就任前に「物価目標達成は日銀に全責任がある」と強調した岩田氏だが、金融政策の限界を自ら認めた形となった。

た。

経済学者である岩田氏は、日銀の資金供給が不十分であることがデフレの原因と主張。就任時には「マネタリーベース（日銀の資金供給量）と予想物価上昇率が高い相関がある」と述べるなど、国債を大量に買い入れる大規模な量的緩和（異次元緩和）の導入を強く後押しした。就任時には「（2%未達の）最高の責任の取り方は辞任」「達成できない時、自分のせいではないと言い訳しない。（そうでないと）金融政策が信用されない」と強い自負を示していた。

だが、就任以来の異次元緩和で日銀のマネタリーベースは約3.5倍に増えたものの、物価上昇率は0%台にとどまり、リフレ派の目算は狂った。市場からの国債買い入れが限界を迎える懸念が強まり、日銀は16年9月、資金供給量の目標を事実上撤回。長期金利を0%程度に誘導する「量から金利」への政策転換を行った。岩田氏は直後の国会答弁で、政策転換について「私の考えは進化した」と述べた。

岩田氏は31日の記者会見で、「金融緩和は必須条件だというのが私の趣旨だった。量を増やすだけでデフレ脱却ができるとは言っていない」と強調した。だが、岩田氏の主張がリフレ派や異次元緩和に与えた影響は大きく、目標未達について丁寧な説明が求められそうだ。【坂井隆之】

毎日新聞のアカウント RSS

新聞宅配申し込み デジタル申し込み

ピックアップ

労働環境改善の旗振り役となっている役所自身の働き方改革の現状は

アンケートに答えるとAmazonギフトがもらえる「毎日アンケートパネル」募集中!

話題の記事

関連記事

国債市場：長期金利が上昇 0.080%に